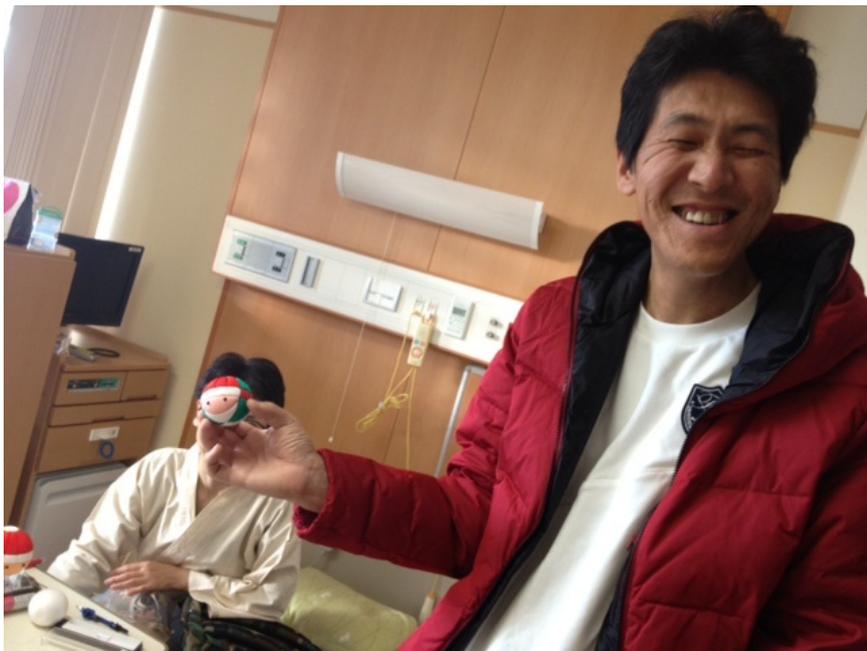


漢方万事塞翁が馬



「人間万事塞翁が馬(さいおうがうま)」という故事があります。
簡単に解説しますと、
塞翁が飼っていた馬が逃げ出した。みんなから慰められていると、塞翁は「いや、これは不幸なことではない」と言った。
数ヵ月後、逃げた馬が駿馬を連れて戻ってきた。みんなから「すごい！」と祝福されると、塞翁は「いや、これは幸いなことではない」と言った。
その後、その駿馬に乗っていた塞翁の息子が落馬して足を骨折してしまった。みんなから気の毒がられていると、塞翁は「いや、これは不幸なことではない」。その後、隣国と戦争が起こり、自国の若者の大半は戦死したが、塞翁の息子は足を骨折していたため兵役を免れていた。

つまり、幸不幸は一時的な現象に過ぎず、その時の状況で変転するもので絶対的なものではないという教えです。

さて表紙の写真は、11月下旬に入院中のお客様（Yさん）のお見舞いにかがった時のものです。

私が手に持っているもの、何だかわかりますか？



「サンタクロースですか？」

いや、そうなんですけど・・・(笑)
これが何から出来ていると思います？

Yさんの病室の机には
カラフルな布、丸い発泡スチロールと
工具がありました。



何やら器用に
工作されていました。

これが、こうなるんですね！

このアートは「繭玉（まゆだま）」
というそうで

そして、驚くなかれ、
このサンタクロースのデザインは
Yさん自ら考案されたそう！



そのYさんは2年前、「死」を覚悟する大病をされました。
40代後半、これから仕事も家庭も、まだまだやることはたくさんある中で。
当時の絶望は計り知れないものがあったと思います。

しかし、その入院中に会ったのが、この繭玉でした。
長期入院を経験していなければ、繭玉づくりとの出会いはなかった。
「定年後の楽しみの一つです」とおっしゃっていました。

2年が経過して病気は順調に回復され、その後仕事にも復帰されていましたが今回、無理がたたって久しぶりの入院となりました。

が、しかし！

お見舞いにかがって、今回は最初と大きく異なっていると感じました。

もちろん病状の深刻さの違いもありますが、

「体は健康を失っても、心まで健康を失っていなかった」

医者に「要入院」と診断されて、その時はさすがに落ち込んだ。

「頑張り過ぎたからだ・・・」「職場に家族に申し訳ない・・・」反省もした。

しかし、Yさんは主治医に「入院はできません！」と抗うことなく、考え方を切り換え、現状を受け入れました。

「入院はそれを理由にして、ゆっくり休みなさいということかな。

またみんなに迷惑かけてしまうけど、好きな繭玉もできるし！」

一般に病気や入院というのは、「不幸」な出来事でしょう。

辛く、悲しく、病気によっては「死」を考えさせられる。

でも塞翁さんだったら、それをどう考えるでしょう？

「病気になったとは気の毒ですね。入院ですか、大変ですね」

と言われたら、きっと

「いや、これは不幸なことではない」 でしょうね

Yさんが太田東西に最初にいらっしゃったのは15年前。

当時は突っ走り、どこかで自分の健康に過信していたから漢方相談も断続的。

体調管理に本気さがなかった、太田東西の“不良生徒”でした(笑)

でも2年前の大病をきっかけに、自分を見つめ直します。

長期入院となって、家族がYさんの「生」のために、懸命に動いてくれました。

夫と、子どもと、親と、きょうだいと、その絆が深まりました。

「ありがたい・・・(涙)」 家族への感謝も深まりました。

雑多な毎日の中で、自分の人生を考える時間がなかったのが、入院することでその時間が持てた。自分を振り返ることが出来た。繭玉とも出会えた！

そして今では、太田東西の立派な“優等生”となりました！！(笑)

塞翁さん風に病気を考えると

「病気知らずの人生は、幸いなことではない」

「病気ばかりの人生は、不幸なことではない」 となります。

「そんなバカな！ 誰が好き好んで病気したいと思いませんか！

病気は苦しい不幸な出来事に決まっているでしょう！」

そうした反論が聴こえてきますが、それでは『心の成熟』は得られません。病気・入院知らずの人は、その経験がありませんから、病人・入院患者の気持ちがわからない。弱い人の立場になって考えることができません。

自分への過信から「傲慢」になり、人の言うことを聞かない「頑固者」になり、病に伏す弱者に向かって「気合が足りないからだ！」「たるんでいるからだ！」精神論根性論を浴びせます。時に、そうした夫は、インフルエンザの高熱で寝込んでいる妻に向かって、看病することもなく「晩飯はまだか？」平気で言えるんですね(笑)

子どもの病気がきっかけで、夫婦の仲が良くなった。妻の入院がきっかけで夫や子どもがしっかりした。「自分のことは自分で」という自立心が芽生えた。「家族が健康で毎日過ごせることは、あたりまえではない」と気づいた。健康を失って、入院生活を余儀なくされて、「死」「命の期限」に震撼した。

だから

今の健康に、今生きていることに感謝できるようになった。

お世話になった家族に、周りの人たちにも感謝できるようになった。

死から逆算して生きる、後悔しない生き方を心掛けるようになった。

それが『心の成熟』というものです。

太田東西薬局の漢方相談は何のためにあるのか？

漢方を続けて1日でも長く生きるためにあるものではありません。

老病死に対して、『塞翁が馬思考』を確立するためにあるとお考えください。

「体は老いて、病んでいっても、心は右肩上がりに強くなっている(いた)！」

その境地に到達するために、予防を意識して継続してほしいと願っています。

病気になって

「ダメだ・・・」「ついていない・・・」自己憐憫(れんびん)自己嫌悪に陥ったり

「なんで私ばかり！」「あいつのせいで！」不平不満、恨み、愚痴にまみれる

そんな心まで老化した、『病気 = 不幸』『死 = 絶望』で終わるような虚しい人生は歩みたくないものです。